

- 22 ハエドクサウ科 ハエドクサウ、
 23 オオバコ科 オオバコ
 24 アカネ科 アカネ、エゾヨツバムグラ、メエムグラ、ヨツバムグラ、ヤマムグラ、オオバノメエムグラ、キクムグラ、クハユムグラ、ヒメムグラ、ツルアリドウシ、カハラマツベ、フタバムグラ、ハシカクサ、ヘクリカズラ、
 25 スイカズラ科 ツクバネウツギ、タニウツギ、クサニワトコ、スイカヅラムシカリ、ミメマシクレ、コバノガマズミ、ミヤマガマズミ、ガマズミ、カンボク、ニワトコ、ゴマキ、ヤブデンマリ、
 26 オミナエシ科 オトコエシ、オミナエシ、ツルカノコサウ、
 27 マツムシサウ科 マツムシサウ、
 28 ウリ科 アマナメズル、ミメマニガウリ、カラスウリ、キカラスウリ、スズメウリ、ゴキズル、
 29 キキヨウ科 キキヨウ、ツリガネニンジン、ツルニンジン、ホタルブクロ、ミソカクシ、ソバナ、
 30 キク科 ニガナ、マクシソウ、ジシバリ、イワコガナ、オホバニガナ、オホニガナ、ヒヨドリバナ、クルマバヒヨドリバナ、キンモンヒヨドリバナ、サシガングビサウ、ノツボロガングビサウ、ノアザミ、マルバノリクラアザミ、カガノアザミ、ハンゴンサウ、ヨメナトキンサウモミヂガサモミヂハグマ、オオカニコウモリ、クルマバハグマ、キツコウハグマ、シラマギク、ユウガギク、フフキ、ダイコンサウ、ハハコクサ、チヨウジギク、ヒトツバヨモギ、イヌヨモギ、オトコヨモギ、ヨモギ、ママヨモギ、ノコンギク、シロヨメナ、ゴマナ、アメリカセンダンクサ、トウコギ、ヤブタバココメブタバコ、リウノウギク、オクルマ、オニタビラコ、ヒメムカシヨモギ、オオアレチノギク、ヒメジヨオン、タカオブロウ、サワヒヨドリ、センボンメリ、チチコクサ、サンヒチサウ、キクイモ、ハルノノゲシ、アキノノゲシ、ママニガナムラサキニガナタビラコ、オニタビラコ、オタカラコウ、フキコウソリナ、サワオクルマ、ノボロギク、タムラサキ、メナモミコメナモミ、アキノキリンサウ、オニノゲシ、ママボクチ、オオオナメモミタンポポ

丹生郡若須岳植物採集

実施期日 昭和29年6月13日

行程　午前7時50分武生新堀前行バス乗車、千合谷下車、千合谷(白山村)より若須岳へ登山、熊谷(宮崎村)へ下山、この両移動、鯨浦線江波駅より電車で帰郷。

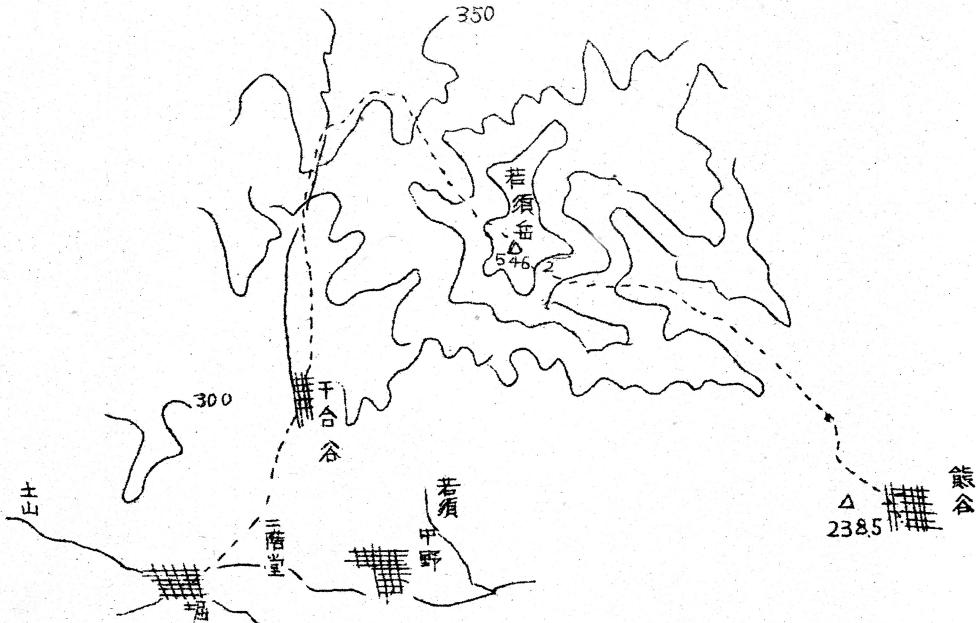
参加者　武生市議会議員以下20名、千合谷で本日の案内着着端白山中学校長以下取扱生徒 約10名、計約30名。

千合谷から千飯洞迄約2kmの道は海岸へのバス道路で、草木にはオニタビラコ、コウゾリナ、キツネノボタン、ウマノアシガタ、シバ、イ、ニガナ、オ、ベニガナ、ノナザミ、キテンソウ、ホトケノザ、ノチドメ、ヒメジョン、コアシザイ、ママボクチ、チコクサ、イワフジ、ミソハギ、アキカラマツ、モミジイチゴ、ホタルブクロ、オ、フジイバラ、メギ、アオツボラフジ、オトギリソウ、ヒキオコシ、ゴヨウアケビ、ミツバアケビ、ウマゴマシ、ニガノチゴ、スマメノエンドウ、カラスノエンドウ、カスマクサ、ウツボクサ、スイカズラ、ハンショウズル、ヌカボ、カニツリクサ、ナギナタガメ、ヒメコバンソウ、カモジグサ、ドジョウツナギ、コウガイセキショウ、ゴソウ

等があり、羊齒には

イタチシタ、クマワラビ、ベニシタ、サイゴクベニシタ、オクマワラビ、クジメクシタ、トランオシタ、ホラシノブ、ミゾシタ、イヌワラビ。

普通山地のものが見られる。部落の畠にムラサキタケが栽培されていた。樹木には、コナラ、ミズナラ、イヌガメ、コバノトネリコ、イヌサシショウ、ウリ



ハダカエデ、ハナイカタ、ミツバウツギ、等の雑木が見られる。ミズナラが標高約300mのこの辺に見られるのは注意すべきことではなかろうか。

かくて、干飯洞に達した一行はこの隧道の名が、「ホシイドウ」であることを道端林蔵から教えられ、約500mの隧道を出た。標高325mのこゝからは眼下に日本海が開け、良いながめである。隧道を出た所から右手の山道に入いる。急な小径があるので一列となって採集する。こゝら辺りは杉林で所々伐りはらわれてあり、陽地には、イタドリ、ノアザミ、タチツボスミレ、カンボク、アキカラマツ、クズ、ゼンマイ、が見られ、陰地には、フキ、オハラメアザミ、クサイチゴ、ボタンズル、ホタルブクロ、イノコズチ、ノブドウ、ナワシロイチゴ、ミズタマソウ、ユウガギク、チバミザサ、アフヒスミレ、オツツミラフジ、ヤマジノホトトギス、コアジサイ、ホッコクネコノメソウ、キンミズヒキ、カラムシ、アオカラムシ、カワミドリ、イノヂ、イノモトサウ、フモトシタ、ジユウモンジシタ、ヤツラシタ、等がミツバキ、ムラサキシキブ、ニワトコ、マツデマリ、コナラ、ミズナラ、オバアサガラ等の間に見られた、こゝにオバアサガラの見られるのは珍らしいことである。やがて道は一つの丘の頂上に達し、こゝの伐りはらわれたところには、ス、キ、イタドリ、ヨモギ、ダンドボロギク、キツネノボタン、オニタビラコ、ミツマハコベ、テツカエデ、ウラジロノキ、等があつた。目的の若須岳はすぐ目の前にあるが、我々は道を譲ったので、こゝからは道のない急斜面を下る。こゝには、ナツハゼ、ヤマツジ、ザイフリボク、ナンキンナ、カマド、イヌザクラ、イソノキ、ツクバネ、クルマバハグマ、エゾユズリハ、サワダツ、コウゾ、エンレイツウ、ジメコウリウ、スミレサイシン、キンラン、ツルアリドウシ、等がある。普通1000m以上の深山にあるジメコウソウの見られるのも珍らしい。かくて若須岳との間にある谷川の辺に出た。こゝには、コチメルメルソウ、ハルトランオ、ウツバキソウ、アオミズ等があり、こゝからはいよいよ若須岳へかかる。植樹されたスギの大木の下には、ハウチワカエデ、ママボウシ、マルバマンサク、ウラジロノキ、ミズナラ、アズキナシ、エゾユズリハ、ブナノキ、キンキマメザクラ、カマツカ、ツノハシバミ、ママハゼ、ナツバキ、ハネミイヌエンジユ、アカガシ、ザイフリボク、アカシデ、イヌシデ、ツバキ、ケンボナシ、ウワミズザクラ、クロウメモドキ、ミツバカエデ、がある。ママボウシは今が満開で葉の上に白い花をつけている姿が美しい。エゾユズリハ、ブナの出現する所に南方系のアカガシの見られるのは海岸に近いからであろう。ツバキの花はすんだが葉の細かい事や樹相からマツツバキと思わ

れる。下草及び灌木には キツリフネ、フタリシズカ、ウマノミツバ、ヒヨクソウ、トウザシバ、キキョウ、ボタンズル、ノビル、ホウチヤクソウ、イヌショウマ、オハカニコウモリ、ツリガネニンジン、ママハタザホ、ムガゴイラクサ、ミズタマソウ、ウバエリ、タムラソウ、ホドイモ、イチゴツナギ、サルナシ、キクバドコロ、ノササギ、サイコクミツバツヘツ、ウラジロレンゲツツジ

等がある。かくて頂上に達したのは〇時20分頃なので見はらしの良い所で昼食をとる。いつもの事ながら山頂からながめる景色は美しい。すぐ目の前には城山がそびえ、越知山、鬼岳等の丹生山塊の山々が現在する中に部落が散在し、南の方には日本海の青海原がつゞく。山頂附近は黒松が植林されており、この点が最も美しい。帰途は別の道を通り山の北側に出る。

こゝでは、オハウラジロノキ、マップサ、コバノトネリコ、ハネミイヌエンジエ、サワフタギ、ウラジロノキ、ノギラン、シライトイソウ、タンコウバイ、ミメマハハソ、クマシテ、クマイチゴ、トボシガテ、トモエソウ、テンニンソウ、メマタツナミソウ、イヌゴマ、アズラチメン、カラクサイヌワラビ、ミメマベニシタ、サトメシタ、サワグルミ、オハシロバナニガナ 等が見られた。

かくて熊谷を経、鶴来線江波駅より帰途についた。思うに若須岳は樹木が茂密され、山麓附近は杉、頂上附近は黒松が植林されて居り自然林が見られない。しかし、この様な相貌にむかへわらず、北系植物の間に南系植物の侵入している姿が見られ興味ある山である。

大竜山植物採集記

七月四日（日曜日）大竜山（坂井郡竹田村）の植物採集登山が計画され、堀芳寿先生、寒蝉義一先生の御指導のもとに博物同好会々員10数名、坂井郡理科研究会々員約20名のものが参加して盛大に行なわれた。

大竜山は標高1044mの坂井郡第一位で坂井郡の東部に位置し、南には浮城寺山が尾根続きに連り、北には竹田川の溪流を隔て火燈山、富士厚岳と県境の1000m台の山々が連っている。当日は南寄りの微風が吹き時々うす日が射すという曇天で夏山登山としては最好の天候であった。午前6時20分福井駅に集合し、汽車、電車と乗り換えて午前8時に丸岡町に到着、直ちに自動車にて竹田川の溪流を越り、午前9時には竹田村山口の竹田小学校に到着、こゝで坂井郡の理科研究会々員ヒ合流して直ちに大竜山に向って採集会が行われた。